

見坊豪紀 辞書編纂者、国語学者。天才肌で「明解国語辞典」で辞書を革新後、最も現代的な「三省堂国語辞典」を刊行。

けんぼうひでとし

第一次大戦始 1914 = 東京で、内務省の地方官見坊田霧雄の子に生まれる。

生来虚弱体質に育つ。

原敬首相暗殺 1921 = 7歳：

関東大震災・1923 = 9歳：父が満鉄の社員になったことから、南満州の大石橋へ。

治安維持法・1925 = 11歳：この頃、南満州の营口へ転居。

金融恐慌・1927 = 13歳：鞍山中学校に入学。

満州事変・1931 = 17歳：帰国し、  
五一五事件・1932 = 18歳：山口高等学校に入学。

結核を患い、療養のため、2年休学。

二二六事件・1936 = 22歳：東京帝国大学文学部国文科に入学。国語学を専攻し、橋本進吉の薫陶を受ける一方、

日中戦争始・1937 = 23歳：

父の先輩だった縁で、言語学科の金田一京助のアイヌ語の講義も受ける。

第二次大戦始 1939 = 25歳：父が盛岡市長になる。卒業後、大学院に進学。\_金田一京助から三省堂が新たに発行する辞書編纂者に推薦され、人物査定に際し、早くも際立った辞書作りの原則を提示して認められ、編纂に着手。

大政翼賛会・1940 = 26歳：同期生の渡辺綱也と絶交。\_編纂に大学同期の山田忠雄を誘い、彼の提案で「明解国語辞典」と名付けられ、

日米開戦・1941 = 27歳：山田忠雄の後任として岩手県師範学校に赴任。\_山田忠雄を助手に、短期間に一人で原稿を書き上げ、

創価学会検挙 1943 = 29歳：岩手県師範学校助教授に就任。東京高等学校に転任。\*2年半後、ようやく画期的な辞書「明解国語辞典」(初版)が刊行され、評判にもなるが、金田一京助編とだけあって、名は全く知られず。

敗戦・1945 = 31歳：敗戦したことに衝撃を受け、体調を崩し、以後実家の盛岡で療養。

新憲法公布・1946 = 32歳：東京高等学校、休職発令(事後申請)。

新憲法施行・1947 = 33歳：岩手師範学校教授に就任。

三大事件・1949 = 35歳：この間、ようやく気力と体力を回復、再び、辞書作りに情熱を注ぎ始め、岩手師範学校が岩手大学となり、そのまま教授。\_日本大学に、共同編纂者と認めるようになった山田忠雄を訪ね、「女」の語釈の改良を検討。金田一春彦を加えた三者で、「明解国語辞典」の改訂作業を進め、

朝鮮戦争始・1950 = 36歳：

独立回復・1951 = 37歳：

米ソ事件・1952 = 38歳：\*「明解国語辞典」(改訂版)刊行するや、600万部という驚異的売上で、辞書界を席卷。

\_現代語の第一人者として、

なべ底不況・1957 = 43歳：国立国語研究所の近代語を研究する部門の部長となる。

この間、\_「明解国語辞典」の表音式の見出し表記が問題になり、

美智子妃・1959 = 45歳：急速、学習用辞書の発行が企画されると、またしても極めて短期間に原稿をとりまとめ、

安保闘争・1960 = 46歳：中学生向けの辞書として「三省堂国語辞典」(初版)が刊行されるや、またまた大ヒット、

タイタイ病始・1961 = 47歳：現代語の用例採集を本格的に始め、

全国総合計画 1962 = 48歳：この頃、池袋の貸しビル4室を借りて用例採集、  
印税収入も十分得られるようになったこともあって、  
手狭になったため、

大学紛争始・1965 = 51歳：用例採集のための作業場として大泉学園の一軒家を購入、\_「明解研究所」を設ける。

この間もなお、三者に柴田武を加えて、定期的な会議を開いていたが、

霞ヶ関ビル・1968 = 54歳：\_ついに、国立国語研究所を退職してまで専念、「明解国語辞典」第三版出版の見通しがたたなくなる。

\_世間からも冷ややかに見られるようになるなか、

ドルショック・1971 = 57歳：「暮しの手帖」が特集記事「国語の辞書をテストする」を組み、ほとんどの辞書の用語説明の文が相互に似ていることなど、辞書界の体質を告発、激震が走る。

日中国交回復 1972 = 58歳：\_山田忠雄が主導してきた「新明解国語辞典」完成の打ち上げパーティーに出席、その序文で自らのこと軽んじる扱いをされていることを知り、衝撃を受け、以後、性格的にも激変。

石油ショック 1973 = 59歳：「三省堂国語辞典」(初版)が累計560万部に達する。

角栄金脈辞任 1974 = 60歳：用例採集カードが100万枚を超える。\_「三省堂国語辞典」(第2版)刊行。{三省堂}が会社更生法適用申請。

クランブル事件 1975 = 61歳：この年、{朝日ジャーナル}誌上で、大野晋が山田忠雄の「新明解国語辞典」を批判する一方、「三省堂国語辞典」を絶賛。

田中角栄逮捕 1976 = 62歳：「辞書をつくる」「ことばの海をゆく」を上梓。{三省堂}の更生計画案が承認され、再建へ。

JALハイジャック・1977 = 63歳：「辞書と日本語」を上梓。

三省堂の都合もあって、「三省堂国語辞典」(第2版)には、なお山田忠雄の名も記載されていたが、

貿易摩擦問題 1980 = 66歳：「ことばの遊び学」を上梓。

中曽根内閣・1982 = 68歳：「三省堂国語辞典」(第3版)刊行、編纂者名簿から山田忠雄の名が消えるなどしたが、

ドイツラット 1983 = 69歳：\_心のしこりも消えてきたのか、「ことばさまざまな出会い」の中で、山田忠雄を畏友と呼んでいる。

バブル始・1986 = 72歳：

ドイツ統一・1990 = 76歳：「日本語の用例採集法」を上梓。

\_発行部数で、山田忠雄の「新明解国語辞典」に抜かれ始めるなか、

バブル崩壊・1992 = 78歳：\*早くも「ウルトラマン」の見出しを取り入れるなど、最後まで新語の広がりへの研究怠りなく、「三省堂国語辞典」(第4版)刊行後まもなく、145万枚の用例カードを遺して、起立性低血圧による心不全で、没した。

佐々木健一「辞書になった男」、